

変えよう鎌ヶ谷!市民が主役 県政通信

千葉県議会議員

岩波はつみ

発行日:2025,03,01 (No.70)

発行者:千葉県議会議員 岩波初美

■岩波初美事務所■

〒273-0124 鎌ヶ谷市中央 1-1-34 前田ビル 3F

電話 047-445-5780 FAX 047-445-5790

メール kamagaya@iwanamihatsumi.com

活動ブログ <https://iwanamihatsumi.com>

【県議員を務めて本当に良かったこと】
政治の仕事は夫々に独自のスタイルがある。比べるものではなく、本人の納得度合いがその独創性を決める。私は今一番仕事ができることと実感する。年齢を重ねてできることが増えているからだ。
県議になって本当に良かったことは、全国に暮らす、公権力によって親子分離を経験した方々から頼りにされる存在になれたこと。にわかには信じがたい親子引き離しに、当事者自ら声を上げることへの力になれたこと。

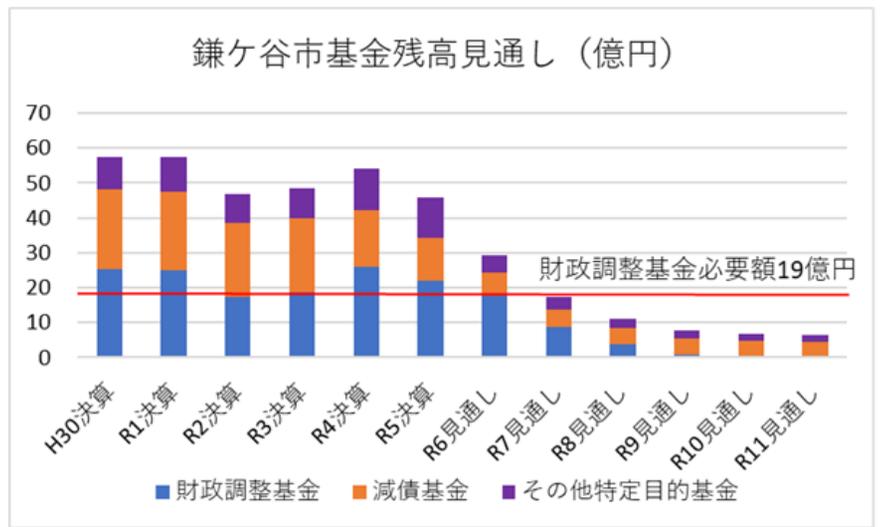


年間財源不足市税収入の8%に相当 『今までにない改革が必要』としつつ 誰がやるの?どうやるの? 市広報が一切伝えない 『市財政緊急事態』

先ず現実を分かるように市民へ告知して欲しい

来年度からの財源不足は年間 11.7 億円、市税収入の8%分にもなるという。相談した県担当者は「まだできることがある今の段階で、手を付けてこなかった事業見直しを行うこと、そして投資に回す財源を確保すること」と強調する。

鎌ヶ谷市中期財政計画にうたうような「今までにない改革が必要」である以上、市民が実態を理解して、そして今までにない改革方針に協力いただくことが何より重要となる。



県議である私が市財政を伝えねばならない理由

米国のトランプ大統領が「～ファースト」と訴えているが、鎌ヶ谷市のことをファーストするのは鎌ヶ谷市民しかいない。市町村は互いに競争をしながら、自らの自治体内に国策と財源を引き入れて、それぞれの特徴を打ち出した発展を目指している。周囲もみなそう。

一方で鎌ヶ谷市は何をしてきたか? 県北西部の鉄道結節点を活かすこともなく、広大な手つかずの大地に何の国策も導入してこなかった。マスタープランに記載された事業計画を待っているが、どんな広域交流拠点になるのかわからない。その結果が『財政緊急事態』として現れてきた。

北千葉道路、新鎌ヶ谷駅前開発等々、すべき課題は目の前に次々登場する。期待される場所の証だ。ぼやき合っている場合ではない。目の前の課題にそれぞれがその責任の範囲で最善を尽くして行動すればいい。

岩波はつみ県政報告会 ご案内

日時 4月6日(日)13時半~15時

会場 鎌ヶ谷市中央公民館集会室

※参加は自由です。直接会場へ



木下街道 鎌ヶ谷7・8丁目

狭い歩道の対面、県道歩道整備が完了

昨年繰り返しこの通信で状況を伝えてきた、鎌ヶ谷8丁目の県道木下街道沿い。開発行為がなされたにもかかわらず、狭い歩道がそのまま宅地造成が許可され、地域住民皆が大変がっかりしたという結末を報告してきた。

その状況への対応策として住民からの要請を受け、千葉県はその対面の歩道のガタツキを修繕し、歩道の凸凹をなくし歩きやすいよう整備をした。なんとといってもこの個所は3年間で8件もの事故救急搬送がなされた場所。

チャンスに合わせ歩道幅が広がるよう、鎌ヶ谷市は歩道を拡げる意志と手続きを条例で定め、先手の用地取得を可能とすべきだ。

この国は何処に向かっているのか？

施設から逃げ帰った中学生、児童相談所内で自死未遂となった中学生

こどもが親から引き離され、収容された施設の中で不適切な対応を受ける。窓から飛び降りて死亡する、散歩中歩道橋から飛び降りて死亡する等、命を救うはずの児童相談所で、逆に自ら命を落とすという事件が報道されている。千葉県内でもこの間2件の重大事案が発生した。

リストカットそして決死の覚悟で県内施設から逃げ帰った中学生と面会

『大きな道路を歩くと警察に見つかり、施設に連れ戻されると思い、狭い夜道を歩いた。向こうから「危ないよ」と止まってくれたトラックに乗せてもらい自宅に戻った。私の他にも酷い目にあっている子どもたちがいるので、それを訴えたい。』と中学生は説明した。

暮らしていた施設では、繰り返しリストカットをしていたが、「外で言わないでね、私が悪いみたいじゃないの」と施設長に言われ、医者に連れて行ってはもらえなかった。施設職員からの自身と家族のことを侮辱する暴言は許せないと説明する。腕にはリストカットの跡が残っていた。施設内で起きた虐待を知ったものは通報が義務なので放ってはおけない。

(中学生が児童相談所に提出した要請書より)

措置解除を求める事に決めました。下記に理由を示します。

- ① そもそも私と[]は、殴られていない。
- ② 申立書が嘘ばかり書いてある。
- ③ 私は父の元で暮らしたいと思っている。
- ④ 自分の意思で帰っている。

以上のことから、学校や病院にも行けず困っています。
措置解除を早急にお願ひします。

千葉県内の児童相談所での自死未遂事件

児童の自死未遂事件は昨秋にも起こった。突然中学校から連れ去られた中学生は、一時保護所の個室に入れられた翌日、電気コードで首を括り自殺を図り、未遂で発見された。職員には「家に帰りたかった」と理由を説明した。しかし、すぐに救急車は呼ばれず、3時間後、タクシーで病院に連れていかれた。何故、救急車を呼ばなかったのか？警察に連絡され、表に出したくなかったのではないかと疑念をもつ。

母親が児童相談所に呼ばれていたその時間帯の出来事であったが、母に伝えられたのは発見から1時間後、自宅に戻ってからだった。

その後自宅に戻った中学生は、中学校に通うことを拒否し、高校受験さえも拒否している。同級生の受験する様子に焦りを感じる娘を案じ、母親は地元中学校に協力を求め、市に児相との間に入ってもらうこと、今後の児童の進路等話し合いを始めたという。

インターネットラジオ
放送中です



令和7年度予算委員会 2/12 登壇 県立病院への赤字補填、児童相談所職員の定着、教職員の持続的確保について質疑しました。

- 県立病院の赤字補填、財源不足の補填に一般会計から合計96億円の貸付を行うこととなる。原因は医師あたりの患者数が類似病院の比較で最低を長年改善できていないため。不足したら一般会計から補って貰えばよいなどと、万が一にも考えているなら、県立病院は存続できないと思って向き合って欲しい。
- 児童相談所の職員の定着を図り、業務の質を向上させるためには、市町村に虐待通報への対応分担を要請し、児相職員の業務負担を削減してほしい。
- 教員の持続的確保のために 非正規教員の採用試験合格率が47%と半数に満たない実態。毎日教壇に立っている先生が合格できないというのは、選考方法に問題があるのではないかと。その改善を求める。

岩波初美(イワナミ ハツミ)経歴

- 1959年(昭和34年)山梨県生まれ 鎌ヶ谷1丁目在住
- 夫・子ども3人・孫4人(岐阜県/大阪府在住)
- 千葉大学教育学部卒業、千葉工業大学大学院修士課程修了。
- 大学卒業後、生活協同組合職員8年、鎌ヶ谷市議会議員4期。NPO法人役員、会社役員を経て、アクアライン800円提言・実現。千葉工業大学特別講義講師11年間務める。鎌ヶ谷市長選挙に3回挑戦。
- 現在 2019年4月より千葉県議会議員、知的障がい者グループホーム職員、NPO法人元気になろう福島理事、児相と親子の架け橋千葉の会世話人、児童相談所のあり方を考える地方議員懇談会代表、北千葉道路地下化で街づくりの会顧問

